

質疑・質問

中野 寛之 議員



(一問一答方式)

- ① 公衆トイレの整備
- ② 防災対策
- ③ 心のまちと納税
- ④ 子育て支援
- ⑤ 通学自転車用ヘルメット
- ⑥ 加藤家と中江藤樹先生の大洲入り400年顕彰事業

子育て支援について

問 愛媛県では、子育て応援アプリケーションきらきらナビを

提供しているが、本市の情報はやや少ないように感じる。

答 このきらきらナビを活用することが、コスト面でも利便性においてもより望ましいと考えられるが、今後どのように周知を図り、また本市の子育て等に関する情報の充実を図っていくのか、これらの取り組みについて伺いたい。

答 きらきらナビについては、現在本市からの情報はやや少ないものと考えており、今後より多くの必要とされる情報を提供すること、きらきらナビの一層の内容充実に努めるとともに、ホームページなどで広く市民の皆様へ周知を図ることで子供の健やかな育ちの実現、子育て世代の不安感、孤立感の解消を図っていきたいと考えています。

通学自転車用ヘルメットについて

問 県内全ての県立高校で自転車に乗る際のヘルメット着用が義務化されたが、その際、ヘルメットの種類については、生徒の意見を聞きスポーツタイプのソフト型ヘルメットに選定されたとのことである。

そこで、ソフト型、ハード型、両タイプのメリット、デメリット

について教育委員会の見解を伺いたい。

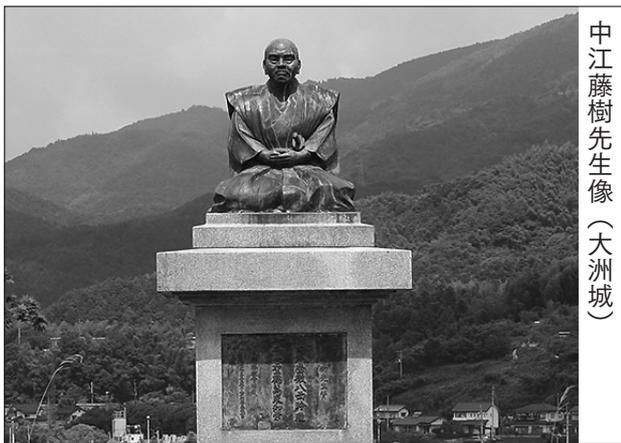
答 南予教育事務所より、ヘルメットの企業が同じメーカーの製品を比較して得た両タイプの特徴について情報提供がありました。これによると、耐用年数は、いずれのタイプも3年と差はありませんが、衝撃吸収力、重量、通気性はソフトタイプのほうが優れているということです。表面硬度については、ハード型のほうが優れています。ソフト型の表面硬度もJIS、日本工業規格の安全基準を満たしておりますので問題はないと考えられます。

加藤家と中江藤樹先生の大洲入り400年顕彰事業について

問 中江藤樹先生が加藤貞泰公とともに米子から大洲に來られて、ちょうど来年が400年を迎えることになる。多くの市民が小学生のときから聞くことのできた藤樹先生の教えというものは、今も我々の中に受け継がれており、またその思想は大洲市教育の根幹であるとも感じている。大洲の一員として、藤樹先生の業績をたてる顕彰事業の必要について、理

事者の見解を伺いたい。

答 400年を迎える来年は、次の世代に引き継ぎ顕彰していく上で節目の年となるものであり、顕彰事業の実施は大変意義深いものであると認識しています。この顕彰事業については、博物館での特別展示展や生涯学習講座の開催、夏季大学での記念講演の検討、また米子市との交流事業の充実を図るなど、さまざまな分野で考えられます。今後、大洲史談会や大洲藤樹会など、関係する団体等とも協議を進めながら、2017年の顕彰事業の実施に向けて検討を進めてまいりたいと考えています。



中江藤樹先生像(大洲城)